

## 西栗倉村総合戦略 有識者会議 議事録

日時：平成 27 年 10 月 23 日(金)10 時～

場所：西栗倉村役場 2 階会議室

- ・人を増やすことを考えると、仕事があることが一番になると思うが、西栗倉村は、産業を進めている中で、森に関わる人をどんどん増やしていこうという中で取り組まれているので、「人の受け入れ」ということが重要かと思う。
- ・人材確保は、村内だけでは難しいので、働く人も村外から来ていただくことを考えるべきだろう。短期的には、新たな人材を呼びながら、村内を育てていくということが重要と思う。
- ・「観光や交流」については、村内に住んでいただかなくても、近隣から働きに来ていただく、近隣へ働きに行くという環境もつくっていくべきではないかと思う。
- ・岡山県で考えると、北の東のはしだが、大きく考えると、山陽山陰の真ん中に近く、高速道路も智頭急行もあり交通に恵まれている箇所である。鳥取からのアクセスも良く、関西方面も良い。人を呼び込む。仕事もアクセスを活かしたことを考えてはどうか。
- ・新たなビジネスのチャンスも育っているので、100 年の構想のプラットフォームをつくる、そして、地域の人材で新たな産業を育てるということにつながっていくのではないか。
- ・村だけでなく、広域的に考えていく必要があるのではないか。ないものを新たにやるということは難しいが、近隣の市町村との連携も必要かと思う。
- ・県内の学校では西栗倉村より小学校人数が少ないところもある。そこでは、学校だけでなく、他地域と交流事業をやったり、中学校に進学する前に一緒に合同の宿泊研修をやったりしている。近隣の市町村と交流もできるのではないか。
- ・人口増やしても住む場所ないとどうにもならない。村営住宅や空き家の確保、新築アパートなど、どのような予定があるのかお聞きしたい。
- ・新事業、二次創業、業・起業が連動している。現在は、木材や林業関係が多い。農業関係についても新しい事業展開を検討したら、I ターンで来られる方の選択肢も広がるのではないか。
- ・銀行でもアグリフェアを実施し、商談会を行っている。活用いただけたら販路開拓などのご紹介できるのではないかと思う。
- ・子育て環境として、小学校・中学校までは良いが、高校・大学になると、地理的な関係で他の地へ出ていくことが多い。交通費を考えると転出される人も多いと聞く。高校の支援についても、充実させていただくことで流出する方をとどめることができるのではないか。

- ・空き家はたくさんあるが、盆正月帰ってくる。管理されている兄弟と話すともとまらない。ということがある。少し、考えてを変えていただくことをしていかなければならない。
- ・人口 1500 人の中で、一企業の廃業が大きな影響がある。逆に一企業が増えれば貢献度も大きい。その取組、西栗倉ならではの取組をして、新規事業がPRにつながる部分もあるので、継続してほしいと思う。キーマンになる方が一人でも来られたら影響力はある。そのため、創業・起業が一番の優先ではないかと思う。
- ・人材育成について、子ども・大人について。高校で出てしまうということだが、小中の期間の教育が重要になってくる。津山市、美作地区の野球大会は地域超えて合同のチームを作って参加しているところもある。子どものころから交流チームをつくるということは子どもにとって良い教育になるのではないか。
- ・大学生のキャンプの事業を誘致し、短期間でも子どもの教育の場所として西栗倉村でやってもらうということも大切だと思う。人材育成を通じて、人を呼び込んでいくという考えもある。
- ・美作市の村長は、西栗倉出身。美作市と連携するということを考えてはどうか。
- ・移住したとしても、移住先からふるさとを支援してほしいというのはいいメッセージだと思う。意外と、離れてしまうとどこで何をやっているかは分からない。高校の同窓会も開きづらい状況が続いている。40 歳になると幹事になって、名簿がそろうということがある。リーダー育成と同時に、外に出た人もつながっていく、個人情報管理していく。ということも重要だと思う。
- ・村のタクシー事業者が 10 月末でやめると言われた。ここから外にでてくるときどうなるか。なくなるとまざまざと重要性を感じる。
- ・今ある企業も支えていくということ、パーツを支えないと全部が崩れていくということがある。
- ・地方創生の戦略案について、全国、どこの自治体でも戦略を策定されている状況で、素案を出されている。その案を村自体が住みよい村である、受け入れの対策をとっているという広報周知をしていくことが大前提だと思う。知られていなければ意味がない。いかにして、周知をしていくかということが大事である。
- ・子育て環境については、転出される方、転入される方は何を基本に転入されるのかということを見ると、子育て環境が揃っているかどうかということが大切。ソフト面、ハード面どう支援していくのか、子育てについて、転出をされた方の理由が知りたい。そこが分かれば防止ができるのではないか。
- ・創業・起業について、新事業・二次創業とも迷ったが、村から美作に行かれる方も、こちらに働きに来られる方も多いので、直に人口増につながるということを見ると、村に住んで、創業・起業するということが直接人口増につながっていくのではないか。
- ・枠組みづくりとして、個人事業や商店主の情報がつかんで、その後を継ぐネットワーク

を探す仕組みがつくってはどうか。先が見えた段階だと対処のしようがある。

- ・周知させるということは村は苦手だが、それぞれの施策をPRしていく。今後、各自治体が、PR合戦にもなるのかと思う。小さな村だからこそリスクを支える支援があるということ伝えることも重要かと思う。
- ・森の学校でも、来年4~5人採用予定である。ローカルベンチャーも採用を予定しているところがあり、家をどうしようという話になる。午後もローカルベンチャーの選考しており、18人の応募から4~5社に絞られると思う。来年20人分くらいが必要だろう。勢いに住宅がおいついていかないというのがボトルネックと感じている。
- ・人口を維持していくために仕事づくりは必要だが、この村に住みたい、家族をもって住みたいと思える地域かどうかということが重要。その結果、仕事が出来てくる。
- ・幼稚園、保育園がこの村らしさ、小さいからこそこの村で育てたい。と思える場所にしていけることが必要であり、そこはテコ入れが必要である。
- ・創業支援はしなくても勝手にはじめるとも思うが、二次創業も含めて、広い意味で人を採用して受け入れていく、村の人事機能が必要と感じている。
- ・なかなか、地域の近いところで採用するといっても、人がおらず、都会からとってくるしかない。地縁、ハローワークで人材採用が出来ないのが問題。
- ・この村で子育てしたいと思う環境について、色々な考え方があって、色々な選択肢を求められる時代。色々な選択肢を村が与えるのは難しいが、一貫して育て上げる、自然・森を活かした教育プログラムなど、これまでもやってきているが、ブラッシュアップして、伝えて、興味をもってもらおうということが重要ということかと思う。
- ・先日も、村の学校が良いと思ってという移住相談もあった。
- ・村づくりの軸がしっかりしていないとだめだろう。改めて、軸である森と木を掲げた方が良いのではないか。創業支援なども関わってくるが、素材だけでなく、基地に使ったり、地域資源を使い切ったりということで創業・起業が生まれてくる。集積していくことが村の生き残る軸になっていくのではないかと。強みを活かしていくことが重要。
- ・そうすると、住民の文化や誇りなどの意識の面も根付いてくるだろう。主体を作っていく必要がある。Iターンの方が来られているが、地元の方が、自分たちの森や環境を見直す、自分たちで改め考えていこうということも重要。
- ・お祭りもハードルが高い。というヒアリング結果があったが、大事な交流の場である。色々交わると新しいアイデアも出てくる。塾ということもあったが、文化や祭りなども手掛かりに、新しい住民自治の形成も出来てくると、地域資源を活かせる仕組みが生まれてくるのではないかと。
- ・最後に、子育て環境について、将来、100年ということを考えると子どもの話が大事である。出生率が以外に低いのに驚いた。出生率が近隣より低い理由についても分析されて、子育ての環境を考えていくことが必要である。
- ・智頭町は森のようちえんもあり、それに共感して、Iターンで来られている方もいる。

教育の在り方、お母さん方も興味あり、移住のきっかけになると思う。

- ・小さいころは村がすばらしいという意識があると、また帰ってくると思う。幼少の時代は大事だと思う。
- ・百年の森林構想も、森の管理だけでなく、教育につながったり、それがきっかけにIターンが来たりという広がりをもってきている。山と木しかないよなということから話が始まった。
- ・今回、改めて、住宅問題が深刻だということが分かった。他地域では、空家があるけど貸してもらえないという課題について、年に数回帰ってくる人たち向けに、その時の宿泊場所を確保しますということをしている例もある。村の宿泊施設に、提供した方に優先的に泊まってもらえるようにするというようなことも検討してはどうか。お金がかかったりすると、とりあえず今のままでいい。という気持ちがあるのかなと思うが、提供いただければお金になるというようなことも村の規模では出来るのではないか。
- ・村には、60軒くらいの空家があり、10軒は村が回収して、家賃月2万円を家主1万円、村が1万円で分けている。残りの家は、半年に一度帰ってきて別荘や仏壇があっても貸したくないなど貸付につながらない事例が多い。全国的にも仏壇があっても、11か月だけは貸すという例もあるようなので、そのあたりも見に行ければと思っている。
- ・他地域では、研修生として受け入れて、研修期間中は、農村型リゾートに1か月くらい受け入れている。当面は、数か月は公的などで受け入れるということも一つの手法だと思う。
- ・公共施設の問題があったが、公共施設の中で住宅に変えることができるのではないか。
- ・医師宿舎や教員宿舎など、村内企業の人が住めるようにしている。公民館は、だいたい使い道が決まっていて、他に住宅として使える場所として候補となる場所がない。敷地の問題もあり、村が所有しているところは良いが、農地を買って建てようとする農地法の問題があり、狭い中では一番よいところに農地がある。
- ・住宅を建設していく方法は色々あると思っている、不動産事業を官民連携でやっていきたいと思っている。その中で、ぜひ、農地法について、転用を高めていくことは考えてほしい。岡山県庁とも連携しながら特区の申請を出すなどを考えてはどうか。農地は農地として守る必要はあるが、農地付きの住宅が出来ることで移住者への動機づけになり、移住者が耕作放棄地を利用するということもあるかもしれない。